

NIE の実践 3 年目の実践のまとめ

鹿屋市立西原小学校

1 はじめに

本校は、鹿屋市の中心部に位置し、児童数 562 名（H27.1 月現在）の学校である。

平成 24 年度より日本新聞協会より N I E の実践指定校を受けて研究に取り組み、今年度はその 3 年目にあたる。また、平成 25 年度から「鹿屋市 NIE 部会」が発足し、その事務局としての役割も果たしている。

2 実践内容

(1) N I E ルームの活用

実践 2 年目から「N I E ルーム」を設置し、閲覧台や新聞ストッカー、机や椅子を配置し、新聞を活用した学習が展開できる環境を整備している。N I E ルーム内は、子どもたちのファミリーフォーカスの作品、子どもたちに読んでもらいたい新聞記事（サッカーワールドカップ、終戦記念日など）などを掲示し、いつでも子どもたちが入ってきて新聞を読めるようにした。また、教室の広報の棚には今月分の新聞を日付ごとに保存し、前月分をストッカーにまとめ、それ以前のものは廊下に保管し、気になる記事をさかのぼって見つけれられるようにしてある。



N I E ルームは設置できたが、2 棟ある校舎の 3 階にあるため、新聞に触れる機会に学年で偏りがある。そのため、多くの児童が新聞に親しむことができるような手立てを考えた。その 1 つとして、多くの児童が利用する靴箱の近くへその日に配布された新聞の 1 面（4 紙）をコピーして掲示している。配布される新聞は毎月同じものではないが、1 紙は小学生新聞もあるため、低学年でも関心をもって見ていた。他の新聞も、記事の内容は分からなくても、一面に掲載されている写真などに興味を示し、時事問題に触れることができていた。

また、校内の他の掲示板には、毎月購読している南日本新聞の「南風録」「ミナミさんちのクイズ」「4 コマ漫画 薩摩剣士隼人」を切り抜き掲示している。さらに、週に 1 回掲載される「オセモコ」も子どもたちの興味を引く内容が多く使われているため、それもコピーして掲示している。休み時間などに立ち止まって見ている子どもたちも多い。



(2) 新聞委員会としての児童の取組

児童会の新聞委員会としても様々な取組をしている。

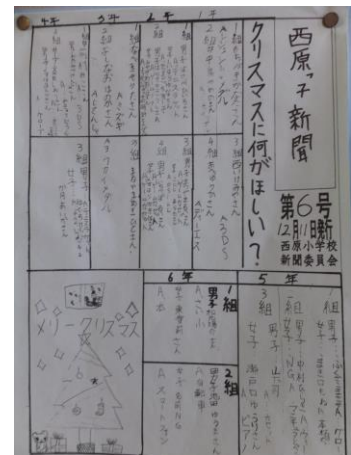
1つ目は、新聞閲覧台への新聞の取り付けである。毎日届けられる4～5社の新聞を閲覧台へ取り付け、前日までの新聞を新聞保管棚へ整理していく。新聞の取り付けは曜日ごとに、新聞保管棚も日付ごとに担当を決め、N I E ルームをきれいに整理できるようにした。

2つ目は、1年目から継続して行っている「喜怒哀楽コーナー」の取組である。「喜・怒・哀・楽」の4つのテーマに関連した新聞記事を選んで感想を書いて校内に掲示した。毎月、子どもたちが自分たちで記事を見つけ委員会の他の子どもたちに読んでもらえるように考えて感想を書いていた。



3つ目は「西原っ子新聞」の作成である。今年度から新しい活動として取り組んだ。新聞担当者が新聞の内容を話し合い、児童会活動や各委員会の紹介、自分たちが取材した内容などを掲載し発行した。作成した新聞は各学級へ配布し掲示してもらった。

- 1号～4号 各委員会の紹介
- 5号 持久走大会に向けて
- 6号 クリスマスに向けて
- ・・・・以後、続刊



まだ新聞作成に慣れていないため、課題はたくさんあるが、今後改善していきたい。

(3) ファミリーフォーカスの取組

「ファミリーフォーカス」については初年度から継続して取り組んでいる。学級通信等で協力を保護者へ依頼し、全学年で年間4回程度（6月，8月，11月，2月）取り組んだ。（1年生は8月からの実施）内容はそれぞれの学年で児童の実態等を考慮し、取り組んだ。

《実践例》

下学年… 四コマまんがのセリフを考えたり新聞の写真などから自分の思いを膨らませたりする。

中学年… 学年で統一した記事を取り上げ、その記事に対しての自分の思いを書いたり、家族で話し合ったりする。

高学年… 自分で興味をもった記事に対して、自分の思いを書いたり家族で話し合ったりする。

新聞を購読していない家庭も多く、普段親子で新聞記事などについて話し合う機会が多くないが、ファミリーフォーカスに取り組むことで親子で新聞を読み、コミュニケーションをとるいい機会となった。

(4) 新聞を活用した授業の実施

本校は、全職員が年1回の研究授業に取り組んでいる。その中で、今年度は低・中・高学年で1時間はN I Eの視点に立った授業を実施した。

① **2年生の実践 国語「写真を見て思ったことを発表しよう」**

ねらい… 新聞から気に入った写真を見つけることで、新聞を見ることに興味をもつきっかけにする。

低学年では、新聞への興味をもつことをねらいとして学習に取り組んだ。読めない漢字や難しい記事も多く、記事の内容を理解することは難しいため、イラストや写真を活用した。学習を進める中で子どもたちはいろいろな記事に興味をもつことができた。また、見た写真について、自分の思いを表現することができた。

② **4年生の実践 国語「新聞のとくちょうと作り方を知ろう」**

ねらい… 新聞の特徴などについて、新聞社の方の話を関心をもって聞き、新聞の特徴や新聞の作り方を知ることができる。

国語科の単元「新聞のとくちょうと作り方を知ろう」の導入で新聞社の方に来ていただき、新聞の特徴や作り方などを聞いた。実際の新聞を見ながら説明を聞くことで、新聞は読み手に分かりやすく伝えるために、様々な工夫がされていることに気づくことができた。

学習以後は、国語の学習だけではなく、社会や総合的な学習の時間、長期休業中の課題での新聞づくりなどにも生かされている。

③ **6年生の実践 社会「2つの戦争と日本・アジア」**

ねらい… 不平等条約改正に向けた明治政府の動きを調べ、その改正の経緯を理解できる。

新聞の中には、社会の出来事などを風刺する「風刺画」があることを伝え、「ノルマントン号事件」の風刺画を子どもたちに見せた。その風刺画をもとに、その意味するものを考えさせ、めあてにつなげて学習を進めた。学習の導入で ICT や新聞を活用することで、子どもたちの学習への意欲を高めることができた。

④ **その他の実践**

- ・ 3年国語「かるたについて知ろう」の中で、いろいろな地域で親しまれているかるたを紹介し教科書で学習した以外のものもあることに気付いた。
- ・ 図工の学習の中で新聞に掲載されていた美術展の紹介を行い、興味・関心を高めることができた。
- ・ 新聞で使われている写真がどのように効果的に使われているか、説明文「アップとルーズ」（4年国語）を読んで考えた。
- ・ 説明文「天気を予想する」（5年国語）で新聞の天気図を使って確認した。
- ・ 6年社会「憲法とわたしたちの暮らし」の中で、新聞を活用し、新聞の中で政治のことが毎日どのように、どのくらい書かれているかを確認した。子どもたち

の新聞の見方が少し変わってきた。

- ・ ノーベル賞を受賞した赤崎教授の記事を廊下の掲示板に掲示した。
- ・ 自分で選んだ記事について1分間スピーチを行った。
- ・ 国語・社会・総合的な学習の時間などで学習したことを新聞づくりで学んだことを生かして壁新聞にまとめられた。

(5) 鹿屋市NIE部会での実践

平成25年度から「鹿屋市NIE部会」が発足され、本校が事務局となり実践している。鹿屋市内の各小・中学校でNIEの係を置き、教育課程に位置付けて実践を進めている。年に2回部会を開いている。今年度第1回の部会では、NIE教育についての基本的な考え方などの説明や県内での実践例の紹介などを行った。NIE教育に対する不安を少しでも取り除くことができたのではないかと考える。第2回は夏季休業中に実施し、各学校でのNIEの実践を持ち寄ったり、曾於市立大隅中学校の熊谷教諭による講話を聞いたりした。

鹿屋市教育委員会と南日本新聞社の間で、「児童・生徒の言語活動充実と新聞活用に関する協定書」を結んでおり、記事の活用や記者等の派遣などができるようになっており、今後も連携して子どもたちの学習指導に生かしていければと考える。

4 取組の成果と課題

【成果】

- ・ ファミリーフォーカスの取組や校内の新聞記事の掲示などを通して、新聞を身近に感じてきている。
- ・ ファミリーフォーカスなどでは、発達段階に応じた写真や新聞記事を選び、それに対しての自分の思いを表現することができた。
- ・ 新聞を購読していない家庭も多く、ファミリーフォーカスに取り組むことで、家族で新聞記事を読んだり感想を交流したりして、親子のコミュニケーションを図ることができた。
- ・ 社会や総合的な学習の時間で調べたことをまとめるのに、新聞の作り方を学習したことを生かして、わりつけや見出しなどを考えられるようになった。
- ・ 新聞を読み感想を書く活動を通して、子どもたちの語彙が広がり構成や表現力に高まりが見られるようになった。

【課題】

- ・ 指定を受けてから職員構成が変わり、NIE教育の実践への意識に差がある。教育課程や研修等に位置付け、全職員が共通実践していけるようにしていきたい。
- ・ 新聞記事を教材として活用することを負担に感じている職員が多い。継続して新聞活用ができるように、新聞活用、資料の精選・データ化・教材化などを図っていきたい。また、実践例などの紹介等も行っていきたい。
- ・ これまで取り組んできた活動を継続して実践していくだけでなく、情報交換を常に行い、効果が予想される取組を積極的に実践していきたい。